

恩師への思い

北野 瑤子

『教師になりたい』、小学生の頃からそう考えていた私は、将来は高校の日本史の教師になるという思いと共に神戸学院大学に入学しました。入学後、迷わず教職課程を履修しました。そこで果たした恩師今西幸蔵先生との出会いは、今からおよそ10年近く前のことです。

先生のごことは1年次から存じ上げていましたが、講義を受講する学生は大人数、そして直接お話する機会がないまま最初の1年を終えました。本命の大学に不合格だったことを引きずっていた当時の私を形容するならば、学業に対して不誠実な学生です。つまり、講義されている先生方に対しても、県外へと送り出してくれた両親・家族に対しても、学びの場を得て成長する可能性を秘めている自分自身に対しても、全てに対して不誠実だったのです。そのまま2年次、3年次へと進学していくに連れて、大学へと進学した理由さえもわからなくなりそうになっていることに気づいた頃、今西先生と出会ったのです。

大学の教授という、私にとって遠くの存在であったにも関わらず、気さくに声をかけてくださった先生は、すぐに私の名前を憶えてその後も声をかけてくださるようになりました。『先生が私をちゃんと見ている』と、まるで幼い頃に戻ったかのようとも思いましたが、何歳になっても他者が自分に対して関心を抱いてくれているということは嬉しく、ありがたいことなのだと思います。

3年次に行われる母校への教育実習の前には、先生に模擬授業を見ていただきました。その時は初めての人前での授業ということもあり、『失敗したらどうしよう』『恥ずかしい』という思いばかりで自信を持つことができずにいました。しかし授業後、今西先生が「良い先生になりますよ。このまま頑張りなさい。」と言ってくくださったことは、大きな励みとなり、自信を育てるきっかけとなりました。このことは、私にとって「教師」としての初めての成功体験であるといえます。大学に入学して以降、見失っていた歩むべき道がまた見えるようになったかのようでした。このことがなければ自信を持つことができずに、その後実際に教壇に立つこともなかったかもしれません。私にとってそのくらい大きな出来事だったのです。

4年次の秋には、大学院進学を勧めていただきました。同期・後輩といえども社会人を経験した方もおり、大学とはまた異なった多様な集団で形成されていたため、講義以外にも学び得ることは数え切れないほどありました。大学院に在学していた3年間で、さらに世界が広がり、物の見方や考え方の幅が広がったように思います。母と大学や大学院、就職のことについて話すことがあるのですが、今西先生の隠れファンである母は「今西先生に出会えてなかったら今のあなたはないね。本当にありがたい。先生に出会うために神戸

学院に進んだんわ。」と、何度も何度も言っていました。先生と出会ったからこそ、進学という選択肢が生まれ、私の人生がさらに広がったのです。先生があの時進めてくださったからこそ、この出会いや学びがあったのです。

大学院在学時に受検した教員採用試験に合格したことをお伝えしたときには、電話口で「良かった、本当に良かったね」と何度も何度も言って喜んでくださっていたのを、今でも鮮明に覚えています。大学を卒業して数年経ってもなお、気にかけていただいているのだと知った時は、さらに喜びが増しました。

現在私はは教員という立場ではなくなり、日本を離れてカナダにて生活しています。カナダにて生活し、教師ではない職業に就いて感じたのが、どの産業・社会、また背景にもつ文化や習慣が変わっても必ず教育の場があり、教育者は求められている現実があるということです。私たちにとって最も身近、かつ小さな集団の単位である家庭においても、親-子間、兄姉-弟妹間、または子どもから親、弟妹から兄姉という、決して単一ではない関係性や方向性において教育・学びの場が存在しています。どんな形であれ、教育に関連した職業に、今後携わっていききたい、できれば、また教師になれば、と思いながら日々を過ごしています。大学・大学院での学びは、カナダにおいても大いに生かすことができると感じたこと、そして私は教育に魅力を感じていること、また、教えながら学ぶことができる教師という職業が好きだと実感したことが大きな理由です。そう考えるに至った背景にはやはり、教育の喜びや学びの楽しみを知るきっかけをくださった今西先生の存在があります。

その今西先生が御退職なさるということで、この度はこのような場を与えていただきました。先生との数少ない思い出ではありますが、どの場面を思い出しても先生は優しく、尊敬する師でありました。これまでノンストップで走ってこられたと思いますので、しっかりと休んでいただきたいと思います。この場をお借りして、拙い文章ではありますが、私を形成するにおいて欠くことのできない存在である今西幸蔵先生への、感謝の言葉を贈らせていただきます。本当にありがとうございました。